図書だより

4号
令和７年度
図書委員会

文月（ふみづき・ふづき）　棚機月（たなばたづき）　七夜月（ななよづき）
七夕に牽牛と織女の星に詩歌を捧げる「文被(ふみひらき)月」から
という説や、書物を虫干しする「文開く月」であることから。

７月は「**読書感想文用の本探査月間**」です。今年度も６月上旬から準備を進めてきました。図書委員会は、これからも楽しみながら本と出合える機会を提供していきます。今年もすてきな出合いがありますように。

今年の夏は、
どんな本と
出合えるかな？

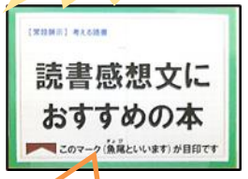
・7月1日(火)から18(金)の間に借りた本は、8月26日(火)が返却日です。

・さらに、一人7冊まで貸出OKです！

夏季休業中の開館日　※8/6(水)～8/18(月)は休館します。
7月・・・　7/22、7/25、7/29
8月・・・　8/1、　8/5、　8/19、8/22

※8/22（金）に借りた本の返却日も 8/26（火）です。8/26から通常貸し出しです。

読書感想文に
おすすめの本は
早い者勝ち



魚尾マークがついている文庫本は、読書感想文におすすめの本です。文庫本以外の本にもおすすめはあります。悩んでいる人は司書・司書教諭に声をかけてください。

あなたに合った本を紹介します。

この夏、新しい本と出合おう

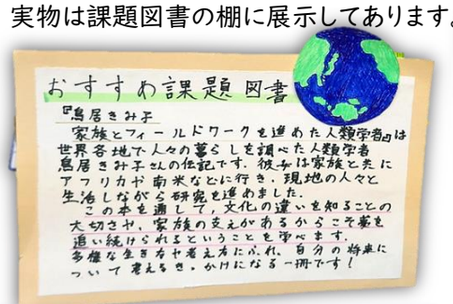
前月号で紹介した図書を「ノーマライゼーション」としてまとめてみました。社会では様々な人が生きて生活していることを、読んで知るよい機会です。

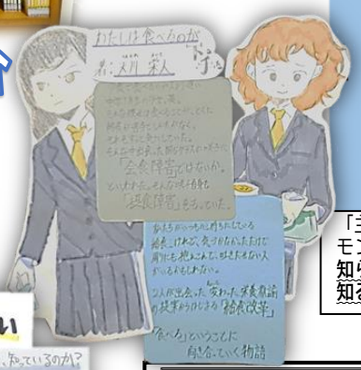
「ホロコースト・アウシュヴィッツ」と「戦争文学」関係や「地政学」の用意、今年も万端です。「戦争⇔平和」という軸だけでなく、「世界・人類・歴史」など複合的な視点で知識を得て、「戦争」を考えてみてください。

１学年総合「福祉」関連の図書を図書館前に移動し、休み時間も自由に閲覧できるようにしました。夏休み直前は貸出可とします。

図書委員による課題図書紹介
～図書委員会応援プロジェクト～

全校生徒に先駆け、図書委員が課題図書を読み POP を作成しました。
実物は課題図書の棚に展示してあります。





●来月号では、富士中卒業生（8年前の図書委員長）からのコメントを紹介します。お楽しみに♪

R7年度版　課題図書おすすめポイント

課題図書のポイントを紹介します。
「読書感想文」をきっかけに、新たな出合いをしてみませんか？

食べるのが下手。生きるのが下手。「たかが食事です」

●**「わたしは食べるのが下手」　天川栄人**

食べることは生きること　生きることは食べることなんだよ

様々な理由で食事の時間が苦手な中学生たちや、ちょっと癖のある栄養教諭が登場。題名が「わたしたちの給食革命」ではなく、「わたしは食べるのが下手」であることに着目。給食の在り方にこだわるより、「食べること」と「生きること・知ること・**わたしたちが**生きていくということ」を考えたい人におすすめです。

「美味しいっていうのは、きっと。生きたいってことなんだ。」

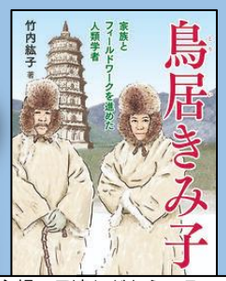
インドについての基礎知識があるといい。★関連図書有り。

●**「スラムに水は流れない」　ヴァルシャ・バジャージ**

「どうしてこれまで気づかなかったのだろう？
ほかにもわたしが気づいていないものがあるのだろうか？」

インド大都市ムンバイ。そのスラムにはムンバイの人口の４０％が住んでいるが、水の供給量は市全体の５％。１２歳のミンニは差別と理不尽の中にも「未来」を見つけ出す。読書途中で絶望しかけるが、「支え合えるから生きていける」という希望に胸打たれる。

「ドアがひとつ閉じても、別のドアがあくって信じてるの」



「主婦で子連れだからこそ、モンゴル人とも仲よくなり、知らないうちに風習や生活を知ることになっている。」

●**「鳥居きみ子　家族とフィールドワークを進めた人類学者」　竹内紘子**

鳥居龍蔵は明治から昭和時代にかけて活躍した「知の巨人」ともいわれた人類学者。その妻きみ子は、実は**家族と共に調査・研究した民族学者**(当時の「人類学」の内容と現在の「民族学」の関係も面白そう)。学問を特別なものとせず、学ぶことを楽しみながら広めた学者夫婦の姿から、国も国境もない平和な世界を願う気持ちが伝わります。

「それは、東アジアを広く歩いて調べた結果だ。
けっして文献だけで考えたことではない」

フィールドワークの重要性とか人類学の可能性とか、様々な視点で読めます。

ここ数年、富士中生は全国大会で連続受賞しています。今年も狙ってみませんか？

読書感想文コンクール応募希望者へ

①原稿用紙（B4）を使用し、縦書きで自筆してください。
②文字数は 2000 字以内です。**Ｂ４原稿用紙５枚目最後ギリギリまで**書くこと。
③題名・学校名・氏名は字数に数えません。原稿用紙の１行目から書いてください。